

食道癌患者に対するFP療法（シスプラチン+5-フルオロウラシル）の与える有害事象および臨床的意義に関する後ろ向き研究

1. 研究の対象

2009年1月～2019年12月に当院で食道癌に対して化学療法（FP療法）を施行された方

2. 研究目的・方法

進行食道癌は、外科手術のみでは治癒が困難な疾患であり、手術に加えて化学療法や放射線療法などを組み合わせた集学的治療により治療成績の向上を目指しております。

化学療法としては、FP療法（シスプラチン+5-フルオロウラシル）が用いられており、当科でも多くの症例で施行してまいりました。

本検討では、食道癌に対してFP療法を施行した方の治療成績を後方視的に解析し、その有害事象や予後との関連を明らかにすることを目的としております。

2009年1月から2019年12月の間に当院において食道癌に対してFP療法が施行された方を対象とし、カルテ上で検索しうる治療経過や治療効果を検討するほか、生検あるいは手術で摘出した検体を用いたヘマトキシリン・エオジン染色ないし免疫組織化学染色による病理学的な検討を行い、それらの臨床病理学的特徴及び全生存率、疾患特異的生存率などの長期予後との関連を検討いたします。研究期間は学校長承認後から2022年12月31日までとします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテ番号、生年月日、イニシャル、病理検体番号、病歴、抗がん剤治療の治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等

試料：生検や手術で摘出した組織 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

担当者：防衛医科大学校 外科学講座 助教 矢口義久（研究責任者）

住所：埼玉県所沢市並木 3-2

電話：04-2995-1216